

令和6年度第1回学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立久米田高等学校
校長名	若林 武志

開催日時	令和6年6月22日(土)10:00~12:00
開催場所	久米田高等学校 校長室
出席者(委員)	堂之本会長、福井委員、阪本委員、濱口委員、山形委員、芝野委員
出席者(学校)	若林校長、木下教頭、小幡事務長、田戸首席、堀込教諭、川浪講師
傍聴者	なし
協議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度第1回学校運営協議会レジメ ・令和6年度 大阪府立久米田高等学校 学校運営協議会委員名簿 ・大阪府立久米田高等学校 学校運営協議会 実施要項 ・令和6年度(2024年度)久米田高等学校マネジメントシート ・令和5年度学校経営計画及び学校評価 ・令和6年度学校経営計画及び学校評価 ・2024年度進路の手引き ・久米田高校パンフレット
備考	

議題等(次第順)

- ・校長挨拶
- ・協議委員紹介及び事務局自己紹介
- ・資料確認
- ・令和5年度の学校評価報告
- ・令和6年度の学校経営計画
- ・その他(令和7年度使用教科書(予定)の確認など)

協議内容・承認事項等(意見の概要)

〈令和5年度学校経営報告について〉

・久米田高校は地域で活躍できる「地域の星」となる人材の育成をめざしている。広報活動においても積極的に発信し、コロナ禍で制限されていた外部の説明会にも参加しつつある。海外語学研修では実施できていない期間が続いており、円安の影響で海外に行くことが経済面で難しくなっている。一方で、生徒は学校行事や学習に積極的に取り組んでいる様子が多くみられる。学力生活実態調査において、GTZがB3以上あり、国公立大学をめざす場合に必須である基準を満たしており、良い結果が出ている。

この3年間の進学実績の伸びをみると、難関大学(国公立・関関同立など)の延べ合格者数も増えている。私学の高校が無償化され、公立高校への進学率が下がる傾向にある中、久米田高校の入学者数は減っておらず、公立高校の成功モデルであると思われる。

要因としては、教員の丁寧な生徒との関わり方が、久米田高校の魅力であり、元気で活力のある学校を作り、雰囲気良くなっていると考えられる。

また、久米田高校の卒業生の努力が今の生徒たちのモチベーションの向上につながっており、生徒たちの活力に影響していると考えられる。

〈令和6年度学校経営計画について〉

・令和6年度について、細かな数値目標を再設定し、取組みに関する大きな変更点はない。

・去年の運営協議会の意見を参考に、今年の夏の学校説明会は8月22日23日と中学校が夏休みの期間に実施できるように変更した。

しかし、できるだけ早く説明会を行うことで生徒の進路決定の参考になるので、この日程も最適であるかは検討する余地がある。

・国際交流は、Zoomなどのネットワークを用いて交流する方法もあるので、今後検討していく。

・私学の無償化の影響で公立高校への入学者が減少している。そのため、久米田高校の魅力を広めることが重要である。久米田高校では広報活動を積極的に行い、魅力を伝えるように努める方針である。

大学入試に関しては、年内で決めてしまう大学もあると聞いている。一般選抜を行わない学校もあると聞いている。新カリキュラムの他に新しい入試制度についても考えて、生徒の進路指導をする必要がある。

久米田高校は入試や進路に向けての情報を生徒たちに多く伝えているところが進路実績に表れていると考えられる。これからも生徒への情報発信が重要になる。

・久米田高校の生徒たちは基礎的なことはできるが、自分で考え応用する力が課題であると思われる。そのため、2年生ではディベートをして考える能力をつけるように促した。生徒たちには主体的に取り組んでもらうためにも、教師の声掛けが重要になる。

来年度は万博があり、万博をただ見るのではなく、万博での発表を聞いたり、体験していく中で、これからの未来の世界を考えていくように促すようにする必要がある。

・久米田高校の課題としては、久米田高校での取り組みを保護者の方々に十分周知できていない部分もあるので、より多くの情報を発信していく必要がある。

また、久米田高校は比較的部活動の入部生徒数は多い方だが、以前に比べて若干減ってきているので、主体性を育てるためにも部活動の取り組みも重視していく必要がある。

次回の会議日程

日時	令和6年10月19日10:00~(予定)
会場	大阪府立久米田高等学校